



# 銅像山通信 第7号

浅野学園同窓会会報・平成16年 VOL 1

発行日：平成16年4月26日 発行人：浅野学園同窓会



「愛」(初代校長 水崎基一)



「努力」(創設者 浅野總一郎)



「大いなる平凡」(第2代校長 神名勉聰)

## 目次

卒業生にとって意義のある組織へ	浅野学園同窓会のありかた	60期 久保田 匠
浅野学園同窓会副会長 岡本順太郎.....2	卒業生から母校・同窓会・在校生へ 夢を追いつづけて...	5
ボクシング部OB 大原恒夫氏を偲ぶ	母校への手紙	45期 鈴木 孝夫
浅野中学・高等学校長 淡路 雅夫.....2	何度転んでも諦めない精神	52期 竹内 一郎
平成15(2003)年度 浅野学園同窓会総会報告.....3	母校への手紙	56期 伊東 潤
委員会から(財務・総務・親睦・広報).....3	平成15年度 各クラブの参加状況と活動実績.....6	
平成14年度同窓会収支報告・15年度同窓会役員.....3	ご挨拶 石橋 義史.....7	
同窓会を新しい出会いの場に	掲示板.....7	
世代をこえて広がる活動をめざして.....4	編集後記.....7	
同窓会ってなに？	平成16年度浅野高等学校大学入試合格者数一覧.....8	
同窓会に思うこと		
45期 古川 高夫		
49期 武内嘉一郎		

## ご挨拶

卒業生にとって  
意義のある組織へ

浅野学園同窓会副会長

岡本 順太郎 (38期)

本年も銅像山の桜が開花する時期を迎え、真新しい制服に身を正した初初しい中学1年生が、打越の丘へ登り来る頃となりました。

恒例の3月10日の卒業式(第56回)では、263名の卒業生が学園を巣立ちました。今年も同窓会代表として参列させていただきましたが、実に整然とした雰囲気の中で卒業証書授与式でした。来賓席から登壇してくる生徒と目を合わせると、皆キリッとしたまなざしではほほを赤らめ、凜々しさを感じさせる頼もしい若人に成長していることに、OBとしての喜びを覚えました。

私は挨拶のなかで卒業生諸君へのはなむけの言葉として1840年にドイツに生まれたユダヤ人サムエル・ウルマン作の『青春』(作山宗久訳)を読ませていただきました。この詩は浅野学園の校歌から得る教訓と重なる様にも思います。同窓諸兄と共有出来ればと思い、この場をお借りしてその一部を記させていただきます。

## 青春

青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う。  
薔薇の面差し、紅の唇、しなやかな手足ではなく、たくましい意志、ゆたかな想像力、炎える情熱をさす。青春とは人生の深い泉の清新さをいう。

青春とは臆病さを退ける勇氣、易きにつく気持を振り捨てる冒険心を意味する。

ときには、二十歳の青年よりも六十歳の人に青春がある。  
年を重ねただけで人は老いない。

理想を失うとき初めて老いる。

角川書店刊『青春とは心の若さである』抜粋

話しはかわりますが、同窓会の現状に立ち戻ります。会の収支状況を見ると、会費収入の8割は在校生から徴集したもので、卒業生からは2割程度の額しか徴集出来ていません。この現状を打開するためにも年会費2000円を平成7年以前に卒業された皆様からご協力をいただかなければなりません。ご存じのことと思いますが、一昨年同窓会独自の奨学金制度を立ち上げました。同窓会として奨学金基金を充実させ、在学中の6年間に万が一の事態が発生しても、在校生を支援出来る制度を早急に確立してゆきたいものです。そのためにも同窓会費納入への協力をお願いいたします。

本年は念願のホームカミングを秋の打越祭に合わせて実現させるように準備をすすめています。小学校中・高学年のお子様をお持ちの方を中心に、多数の卒業生が参加していただける様な行事にしてゆきたいと考えています。同窓会が諸兄にとって意義のある組織として確立出来ます様、皆様のご協力を今後ともよろしく、お願い申し上げます。

ボクシング部OB  
大原恒夫氏を偲ぶ  
生徒のための指導を貫いて

浅野中学・高等学校校長

淡路 雅夫 (40期)

昨年の12月21日大原恒夫氏(21期)が癌で亡くなられた。同窓会活性化へのご尽力はもちろん、学園にとっても賛助会会員として、また、自らのボクシングの経験を活かし、後輩のボクシング部の生徒を愛し、永年指導にあたってこられた。会報の挨拶にかえて、ボクシング部OBコーチとしての大原氏を偲んでみたい。

「週末になると足を引きずりながら校長室に顔を見せる大原さんが、昨年の暮れに亡くなられた。享年76歳。浅野のボクシング部創部以来40年以上に及ぶ長い間、生徒の指導にあたってこられた。学校へ来ると、リングのある格技場へ入る前に、校長室に顔を見せてくれる。生徒の試合があれば、仕事を遣り繰りして会場に足を運び選手の応援をして、次の練習に向けてアドバイスをする。したがって、個性の強い指導者ではあったが、一貫して生徒のための指導を貫いた人として、生徒諸君からは、一目置かれていた。大原さんは、中学・高校の時代は、まず強い心と身体を育てる時期である。自己の健康管理を部活の基本として、練習を始める前と後に必ず自分の体重を測定させて自己のウエイトを管理させ、常に自分の身体で試合に臨ませていた。生徒にとっての健康管理はまさに日常生活管理ということである。生活管理が可能になれば、結果として学習面での効果も上がることになる、という考えが大原さんの口癖であった。ボクシングに関心のある人は、とかく試合前にウエイトを落として下の階級で闘えば有利であると考えがちであるが、それを嫌ったのが我が学園のボクシング部OBコーチ、大原恒夫その人であった。したがって、創部以来、大きな事故の無かったのも当然なことかもしれない。そして、激しいスポーツをやりながら、自己の目標実現のために自分の入学したい大学、それも一般にいわれている難関大学に多くの卒業生が合格しているという事実も浅野のボクシング部の特徴である。

大原さんの病状を聞いて病室に駆けつけたボクシング部現役生の別れの涙は、きっと大原魂を受け継いで日々努力をするという誓いの言葉であると確信している。今ごろ天国で初代顧問であった盛長海先生(元社会科教諭)と酒を酌み交わしながらボクシング部のことを語り合っているのではなかろうか。」

合掌

('賛助会会報原稿より')

総会報告

平成15(2003)年度 浅野学園同窓会総会報告

平成15年度の浅野学園同窓会総会は、6月7日(土)午後5時よりホテルキャメロットジャパンにて、総務委員熊沢真二(53期)の司会により、108名の出席を得て開催された。

開会に先立ち、故前会計川下資文(45期)他46名の物故学友の霊に対し、謹んで哀悼の意を表して黙祷を捧げた後、副会長石崎廣久(15期)の開会の辞、会長代行副会長岡村順太郎(38期)の挨拶、学校長淡路雅夫(40期)の挨拶の後、議長に総務委員横溝貢(31期)、書記に総務委員苅部吉郎(19期)が選出され、議案書に記載された順に従って議事を進行し、

- ・第1号議案「平成15年度事業報告」(総務委員長加藤勇治(36期)報告)
  - ・第2号議案「平成14年度収支決算報告」(会計岩崎正樹報告)  
「会計監査報告」(監事古川高夫(45期)報告)
  - ・第3号議案「平成15年度事業計画」(総務委員長加藤勇治提案)
  - ・第4号議案「平成15年度予算案」(会計岩崎正樹提案)
  - ・第5号議案「平成15年度役員選任」(会長代行副会長岡村順太郎(38期)提案)
  - ・第6号議案「浅野学園同窓会奨学金運用規定」(総務委員長加藤勇治(36期)提案)
- 以上、全て報告及び提案の通り満場一致、拍手を以て可決承認されて議事は終了し、親睦委員長齊藤清紀(48期)より懇親会の準備が整っているからすぐ御来場をとの呼びかけがあり、総務委員新井康

(46期)の開会の辞にて午後5時55分終了した。

本年度は 欠員だった会計に長峯徳積(45期)が補選出され、充実した役員組織を以て活性化に向けて平成15年度の活動が開始できる。「浅野学園同窓会奨学金運用規定」が正式に承認され、奨学金運営委員会の組織も整い、平成15年4月1日より施行されることになり、安心して学業に励んでもらえるよう、後輩に支援ができるようになった。この2点が本年度総会の特筆すべき事項である。同窓会の活動は年毎に充実し、まことに望ましい限りであるが、事業が拡大するに従って支出も多額になるのは当然であり、それは会費によってまかなわれるのであるが、会費の納入状況を見ると、納入して下さる会員の多い期もあれば少ない期もある。会費を納入して下さる御高齢(80歳以上)の方の御理解、御協力には心から敬意を表し、有難く感謝申し上げる次第だが、会費納入会員の少ない期の幹事諸兄には是非御尽力を御願い申し上げ、倍増の御努力を切に御願い申し上げる次第である。

母校の発展を願うという同窓会の目的達成のために、全会員諸兄の御理解、御支援、御協力を重ねて御願い申し上げ、平成15年度総会の御報告とさせていただきます。次第である。

【同窓会副会長 石崎廣久(15期)】

委員会から

**財務** 財務担当役員に就任して、初めて資料の検討と打ち合わせを行いました。金銭に関わることなので、前任の同期の川下君および現場担当の岩崎さんのご苦労がいかに多かったかと察せられました。できたら、近づきたくない部署の筆頭ではないでしょうか。

幸い、校長先生から、実務は現場に任せ、要所を押さえるだけでいいという言葉頂き一安心いたしました。また、私たち会員の会費がどのような実態になっているか、その構成の実態は、初めて知る私としては、驚きの連続でした。会員の皆様、安心して会費を納めて頂けるように、微力ながらお手伝いできれば幸いです。(財務委員会委員長 45期 長峯 徳積)

**総務** 昨年12月、大原恒夫氏(21期)が逝去されました。大原先輩は同窓会活動にご尽力され、また総務委員として同窓会の活性化に前向きな意見とご指導を頂きました。ここに生前のご協力に感謝致すとともに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。さて、平成15年度からスタートしました「同窓会奨学金制度」ですが本年度の利用者はありませんでした。運用については問題点も有り「同窓会奨学金運用規定」の見直しをしながら制度の充実をしていく必要があるかと思われまます。現在、同窓会年会費を約850名の方に納めていただいておりますが、会費増収を計り同窓会の発展と活性化に寄与していきたいと思っておりますので、会員皆様の温かなご支援とご協力をお願いする次第です。(総務委員会委員長 36期 加藤 勇治)

**親睦** 平成15年度の同窓会総会並びに懇親会が、今年の6月7日(土)に、横浜駅西口のホテルキャメロットジャパン(旧名ホテルリッチ横浜)にて前年度同様に開催されました。当日は退職された先生方、現職の先生方、同窓会会員合せて百数十名の参加者を得ての会となりました。総会は、岡本会長代行の挨拶に始まり、議事は滞りなく進み、懇親会は、高橋洋一(48期)氏の司会により進められました。今回アトラクションとして、毎年3月10日に挙行されている高校卒業式の後に行なわれた、第22期の卒業証書授与式のビデオ(NHKのニュース)が上映されました。59年間待たされた卒業証書に、皆さん感動されていました。今年度も同ホテルにて、6月5日(土)に開催いたします。会員の皆様多数の参加をお待ちしています。(親睦委員会委員長 48期 齊藤 清紀)

**広報** 平成15年度広報委員会は以下の通りの活動を行いました。  
H15年4/3 『銅像山通信』第6号の原稿校正会議  
" 4/5 印刷業者入稿  
" 6/7 同窓会総会・懇親会風景撮影  
" 6/20 ホームページアドレス douzouyama.comへ移行完了  
" 8/28 『銅像山通信』第7号第1回編集委員会

H16年2/20 ホームページ全面改訂  
" 2/27 『銅像山通信』第7号第2回編集委員会  
" 3/18 原稿校正会議  
以上ご報告いたします。  
(広報委員会委員長 45期 古川 高夫)

平成14年度 同窓会収支報告 (単位:千円)

(支出の部)		(収入の部)	
項目	金額	項目	金額
管理事務費	1,566	会費収入	7,405
事業費	3,116	預貯金利子	1
積立金	2,500	雑収入	109
予備費	0	前年度繰越金	4,750
次年度繰越金	5,083		
合計	12,265	合計	12,265

平成15年度 同窓会役員

期	役割	氏名
31	顧問	※ 石橋 義史
40	顧問	※ 淡路 雅夫
15	副会長	石崎 廣久
18	副会長	加藤 明
38	副会長	岡本順太郎
46	副会長	※ 阿部 義広
45	会計	長峯 徳積
	会計	※ 岩崎 正樹
45	監事	古川 高夫
53	監事	※ 広瀬 昌治

※は在校幹事

財務	長峯 徳積
45期	岩崎 正樹
53期	広瀬 昌治
総務	
36期	加藤 勇治
17期	小野 善一
18期	谷口 榮
19期	苅部 吉郎
21期	大原 恒夫
30期	栗原 隆
30期	田邊 公男
31期	横溝 貢
40期	吉澤 瞭一
46期	中島 賢司
46期	新井 康
46期	水野 恭一
49期	関野 保幸
53期	熊沢 真二
58期	大野 浩光
64期	堤 敬哉
親睦	
48期	齊藤 清紀
20期	大山 豊造
29期	上杉 政勝
30期	加藤 行一
36期	菜花 衛
38期	小池 典
40期	池田 政弘
42期	小沢 治雄
44期	長井 勉
48期	原 成男
48期	高橋 洋一
75期	石垣 太郎
50期	金子 久雄
広報	
45期	古川 高夫
38期	山口 秀男
44期	石堂照日子
48期	佐藤 洋輔
48期	萩原 壽昭
49期	細野 泰彦
55期	富田 悦生
58期	都築 淳一
45期	酒井 晴雄
52期	岩崎 泉

(委員名の太字は委員長、は在校幹事)

## 同窓会を新しい出会いの場に 世代をこえて広がる活動をめざして

平成5年に同窓会総会が四半世紀ぶりに再開されてから11年目。会員相互の一層のコミュニケーションをはかるため、このあたりでもう一度同窓会のあり方を考えてみませんか？ 総会が毎年開催されるようになって、卒業生の縦と横の関係は着実に強まりました。それでは、年代・地域・職種をこえた“斜め”の関係はどうだったのでしょうか。世代をこえて楽しく参加し、1万5千をこえる同窓会のネットワークのメリットを感じることができる同窓会活動をめざしておおいに意見を交換していきましょう。

### 同窓会ってなに？

45期 古川 高夫

私は昭和43年春に浅野を卒業し、爾来35年以上になります。大学卒業後は、父の経営する老朽化した病院建物の改築業務にあたって、平成10年まで事務長職を務め、現在は介護保険事業で独立しています。卒業後7～8年してから最初の同期会を開き、情報交換の場としての大切さを感じました。何年毎かに同期会を開催するうち、前後の学年も参加して仲間の輪が広がり、縦の学年との交流も深まった。ちょうどその頃今は亡き同期の川下君から同窓会活動に参加するよう勧められ、現在に至っています。

最近、同窓会っていったい何なんだろう……という素朴な疑問を感じています。一般的に言うならば、ボランティアを基本とする親睦団体とでも言うのでしょうか？ でもそれだけで本当にイイのかな？ 各同窓生にとり、もっともっと有効に活用できる組織ではないのかと思っています。最初の同期会を開いた時からずっと感じていることは、同期の仲間にはいろいろな分野で仕事をしている人がいて、その情報量たるや莫大なものということです。例えば、営業に従事する同窓生がほとんど情報のない業種で活動する時、その業種を知るには大変な労力と経済的な負担が発生します。しかし同窓会の繋がりがあれば、その労力と経済的な負担は確実に半減すると思います（いわゆる人脈…ですね）。私は、今までそのメリットをいろいろな面で感じました。ただ残念ながら現在の同窓会では、まだまだ不十分です。それは何かというと、若年の同窓会員が魅力を感じる組織になっていないからです。

本来同窓会はどうあるべきか……ということも最近強く考えるようになりました。同窓会は卒業生誰もが参加して楽しく、そして有意義な組織であることが大切だと思います。そこには年代の差や上下関係もなく、仕事や趣味、悩み相談、思い出話その他諸々自由に情報交換できる場になれば、と思っています。若年の同窓生はなぜ同窓会に無関心なのか？ 時間が暇がない、メリットや面白みもなく興味がなく、参加するには交通費も含め経費がかかる、などがその理由ではないでしょうか。これに対し、同窓会としてはどんな活動ができるでしょうか？ 同窓生相互にプラスになるような情報交換の場の提供、現役生徒や大学生、諸先輩との交流や意見交換ができる場の提供、趣味や目的を同じくする仲間の交流やその募集、出身クラブを基盤とした情報交換、同期生の情報交換、催し物のお知らせや懇親会、飲み会やお誘い、などが考えられます。そんなことが実現すれば活動がより活発になり、社会的に有意義な同窓会組織が実現すると思います。

同窓会としていくつかのことを実行しようと思えばできないことはありません。ただし、協力できる会員が何人かいれば……という前提があってこそそのことですが。それは同窓会のホームページを活用し、自宅を余った少しの時間を使えば可能になると思います。幸いにしてインターネットは相当の普及率で、若年会員でパソコンを利用していない人はほんの僅かです。自分の時間が空いたときに自宅でも協力してくれる会員は必ずいるはず。そんな会員数人に協力してもらえば、少しでも同窓会を理解し、そのメリットを活用してもらえるようになると確信しています。同窓会が全会員にそのメリットを提供でき、楽しく参加できる組織にしたいと考えています。そして、こんな考え方に会員皆さんからいろいろ意見をいただければ、少しずつでも理想的な同窓会に近づくことが出来るのではと考えています。会員諸兄にもこれをきっかけに「同窓会ってなに？」を考えていただければ幸いです。

### 同窓会に思うこと

49期 武内嘉一郎

卒業をして早30年以上がたちました。今日までには大きなミスはありませんでしたが、あの時あの場所であんなことをしていたら、きっと今はもっと何かをしていたらどうかな、等と思うことがたまにありま

す。後悔しているのではなく、自分の可能性を確かめたいと思うわけです。もちろん、今が最高と考えることが大切だと思っています。そんな時、小学校、中学校、高等学校、大学とその時ごとの同窓会は、懐かしく思い出されます。

さて、私にとって同窓会は、同級の友を思いながら、先輩や後輩のことを考え、同時に、今通学している学生諸君と何かのつながりをもっていく会だと思っています。つまり、世代を超えて考え方を同じにして、その後の未来を語り、お互いの人間形成に役立てていくことが必要だと思います。

現在、私の大学の同窓会は、学生諸君と良く話の出来る会として、出来上がっています。それは、同じ職種であることがうまくいっているのだと思いますが、最近は、敢えて違う職種のほうが、面白い話が出来たのではないかと、思うようになりました。もちろん、そんな年齢格好になってきたのですが、30歳も違う人と、もし、話が出来た環境になったら、それもまた、面白いのではないのでしょうか。

今年は、私たちの47年卒組の4年に1回の同期会が開かれます。私も、会計を務めている以上、しっかりと、会を開催できるように努めたいと思います。又、丁度50歳になった記念の年でもあり、盛大に出来ることを祈念しています。

それでは、皆様の今後のご多幸をお祈りします。

### 浅野学園同窓会のあり方

60期 久保田 匠

同窓会活性化のために……息子が浅野に入学し、再び学校・同窓会とのかかわりができました。おそらく子供がいなかったら同窓会との関わりを持たずに過ごしていたと思います。私たちの年代は仕事・家庭とも多忙を極め、ゆっくり同窓会に出席するという気持ちにはなれない時期ですが、子供の受験は学校とのかかわりを持つきっかけのひとつになります。受験生を持つOBへのアプローチは同窓会活性化のひとつの契機になると思います。

同窓会の存在意義……自分たちで集い情報交換するというのも、ひとつのあり方だと思いますが現役の生徒たちに役に立つ情報を提供することも重要だと思います。浅野ネットで実現しつつありますがサラリーマン家庭が多く、親の働く姿を見ることがなくなった現在の生徒たちに社会に出て働くことの意義を伝えることも同窓会の重要な役割だと思います。また、現状の講演会形式だけではなく、(希望者だけが出席する)座談会形式でざっくばらんに質問できるような機会も設けるべきだと思います。

その他……①打越祭への招待、打越祭開催時に於ける同窓生・先生方が集うスペースの設置。②同窓会HPの頻繁な更新・同窓生が書き込み可能な掲示板の設置。③同窓会がしっかりしていることは学校そのもののアピールポイントになり、今後の浅野の発展にも影響すると思われるので、同窓会員のみならず学校全体として同窓会組織の活性化を図るべきだと思います。④卒業すると学校を訪れる機会も少なくなるので、同窓会の開催もホテルではなく学校で行った方がいいと思います。最近の学校の様子もわかるし、懐かしい先生にお会いすることもでき、一石二鳥だと思います。⑤(新制以降)浅野中学卒の場合も同窓会に入会できるようにするというのはダメなのでしょうか？(対象者がどのくらいいるか分からないのですが)





卒業生から母校・同窓会・在校生へ



夢を追いつづけて

最近では、世代を超えた交流だけでなく、異なる職種の交流の場としても各校の同窓会は見直されてきています。なぜその職種を選び、これから何をしようとしているのかを知ることが、他の職種を理解する第一歩です。今回は、創作活動の分野で活躍する鈴木孝夫さん(45期)、竹内一郎さん(52期)、伊東潤さん(56期)から寄稿して頂きました。日々直面するものは違って、熱いものが伝わってくるメッセージです。

## 母校への手紙

45期 鈴木 孝夫

前略。懐かしい母校へ手紙を書きます。

私は昭和43年に6年間通った浅野を卒業。1年浪人して京都の同志社大学に入学。以来京都で暮らしています。

大学では混声合唱団に入学。ここで合唱や創作作曲りに親しんだことがものを書く喜びとの出会いでした。さらに顧問の作曲家の先生のかばん持ちをして、劇団や放送局回りや夜の巷をさまよい歩いたのがこの世界に入るきっかけです。

その後、杉本浩平の筆名で実にさまざまなものを書いてきました。ラジオやテレビ番組の構成、ラジオドラマ、テレビドラマ、企業のPR映画、戯曲、作詞、甲辞、結婚式の新郎新婦の紹介文、小説、エトセトラ。小説『前奏曲』で関西文学賞、小説『いちめんのなのはな』で織田作之助賞佳作。また作詞「西陣物語」で日本作詞大賞新人賞佳作をいただいています。広義に言えば日本と日本人、狭義には京都や和の文化に惹かれています。最近『SAORI』(新風舎刊)というノン・フィクションを出しました。ぜひ一読ください。

私がこの世界に飛び込んだ時は収入とか明日のこととかなんにも考えませんでした。好きな道に進むのが当然というなんとも無鉄砲な青春でした。でも歌の文句じゃないですが、後輩の中にも「そんな馬鹿がひとりやふたり」いて欲しいと心から思っています。

それではお元気で。

草々

## 何度転んでも諦めない精神 52期 竹内一郎 筆名(さい ふうめい)

私が浅野を卒業したのは、昭和50年のこと。中途半端なグレがあり、長期欠席を先生方に何とかごまかして頂いて卒業しました。

大学を卒業して、劇作家を目指しましたが、20代は箸にも棒にもかからず。30を超えて、何とか戯曲で賞を貰いましたが、その後もヒット作品を書くことはできませんでした。まだ力不足でした。

40歳を過ぎた時、『週刊少年マガジン』(講談社)から、麻雀小説で有名な阿佐田哲也の青春時代を漫画化したいのだが原案を書いてくれないか、と注文がありました。その6年前に私は『阿佐田哲也勝負語録』という本を、小さな出版社で出しており、それが講談社の編集者の目に留まったのがきっかけです。

40歳を超えて、私は新しいジャンルに挑戦しました。私が原案を担当した「勝負師伝説・哲也」は星野泰視という才能溢れるマンガ家のお陰もあり、いい作品になりました。マンガは6年半経った現在も連載中です。コミック・総集編も合わせて1300万部売れ、アニメやゲームなどにもなったので、私という無名な作家も、少しは知られるようになりました。私にとっては、僥倖に僥倖が重なった感じです。

九転十起。自分を信じたというより、諦めなかっただけ、というのが実感です。

生きている間は挑戦なのだ、とします。これからも、何度転ぼうと新しいジャンルに挑戦する積りです。

同窓生の皆さん、何度転んでも諦めない精神でスクラムを組みましょう。そのために同窓会の活動に期待する次第です。

## 母校への手紙

56期 伊東 潤

私はサラリーマンのかたわら小説家をしている。

中年まで、ものを書こうなどと考えたことのない人間が、突如として大長編小説を書いてしまうのだから人生は面白い。私の描くジャンルは戦国関東史である。自らが生まれ育った地域の歴史を小説という形態で再構築し、子孫に残していくことが私の夢である。

創造力は我々の内部で眠っている。日々の多忙な生活に追われて、我々はそれを忘れていただけである。きっかけさえあれば、誰も眠っている創造力を喚起し、素晴らしい作品を世に残すことができると、私は信じている。

私の場合、早世した大学の先輩の葬式に出たことが契機であった。祭壇に飾られた彼の著作群(ビジネス書)を目にし、志半ばで倒れたとは言え、作品を世に残し、社会のために尽くした彼の人生は有意義であったと思った。いくら長生きしても、自らの足跡を残せなければ何の人生かと思ひ、筆を執ることにした。それが歴史小説という分野で結実したのは意外だったが、ともかくも本業のかたわらで創造的な仕事ができ、今は充実した人生を送っている。

昨年暮に発表した第一作『戦国関東血風録 北条氏照・修羅往道』は、たいへんな反響で、すでに3000部売れた。この4月には第二作『悲雲山中城』が発表される。

当面は何らかの権威ある賞の獲得を目指し、その後は直木賞を目指すことになるだろう。私の作品には、舌にピアスをする男も、蹴りたい背中を持つ男も出てこないのが、大賞とは縁がないかも知れないが、男の魂を熱くさせることだけは約束できる。

## 《卒業生の活躍する分野》

(第1期生~判明している分/廣済堂調べ)

職 種	件数	職 種	件数
司法系(弁護士・判事など)	7	電機	75
会計士・税理士	60	製作所	129
医師・歯科医師	427	電気・ガス	141
教員(小・中・高)	173	自動車	121
教員(大学)	31	工業	441
国家公務員	98	JR・その他鉄道	75
地方公務員	121	運送業	108
議員	13	航空会社	46
郵便・消防関係	34	商社	217
金融系(銀行・信用金庫など)	283	製薬・科学	100
保険・証券会社	225	金属関係	51
建設関係	314	印刷・出版関係	79
不動産関係	105	ホテル・観光業	38
食品産業	134	スーパー・百貨店	49

この表は、同窓会名簿で各職種を検索した件数を元に出しており、実際と違う場合があります。

## 平成15(2003)年度 各クラブの参加状況と活動実績

ク ラ ブ 名	顧 問 名	部員数	主 な 活 動 や 実 績
ア ー チェリー部	松岡 押田 小西	31人	神奈川県高校新人大会(男子)12位・14位。 第23回全国中学生大会 30mダブル26位。
アメリカンフットボール部	斉藤 沼沢 森	15人	神奈川県大会ベスト16位。
剣 道 部	前川 原田 加藤勉	27人	高校;立教杯3位。横浜地区剣道大会ベスト16位。 中学;神奈川区大会2位。
サ ッ カ ー 部	永山 波田野 芳賀 酒井	38人 58人	高校;関東大会神奈川県予選ベスト32位。インターハイ予選県ベスト64位。 中学;私立中学大会Aブロック1位。同新人戦3位。神奈川区夏季新人戦・同冬季新人戦優勝。第6回横浜国際競技場杯ベスト8位。
柔 道 部	平山 西澤 大川	43人	高校;横浜市大会ベスト8位。 中学;全国中学大会予選神奈川県大会団体9位。横浜市大会個人戦3位・5位入賞。 横浜市新人戦(個人戦)55kg級9位。66kg級3位(2名)。73kg級9位。 神奈川県新人戦( )66kg級9位。
水 泳 部	愛甲 土門 河田	27人	神奈川県大会8位(100mバタフライ・100m自由形共に) 関東大会22位(100mバタフライ)24位(100m自由形) 国民体育大会400mメドレーリレー出場(バタフライ)。400mリレー出場(自由形) 地区大会200m個人メドレー優勝。100m背泳ぎ3位。
卓 球 部	奥野 越智 磯崎	64人	高校;団体戦神奈川県大会ベスト8位。シングル県大会5名出場。ダブルス県大会2組 出場。 中学;横浜市大会2名出場。
テ ニ ス 部	広瀬 灘山 持丸 金子 小林桂	146人	横浜地区テニスリーグ二部4位入賞。
登 山 部	比留間 麻生 大塚重	20人	関東大会出場。
ハ ン ド ボ ー ル 部	山田 吉澤 徳山	126人	高校;横浜市大会優勝。神奈川県選手権ブロック優勝。 中学;横浜市大会準優勝。
バスケットボール部	田中邦 堤 更田 大塚剛 本多	38人 47人	高校;高校総体地区予選1回戦突破。 中学;神奈川区1年生大会・新人戦優勝。横浜市新人戦Cブロック大会準優勝。横浜市新人戦ベスト8位。神奈川県私学大会2位。横浜市選抜Aチームに1名選出。
バドミントン部	山崎 安井 今井	43人	横浜北地区団体戦準優勝。ダブルス神奈川県大会出場(ベスト8位)。シングルス県大会出場。
バレーボール部	中村 里見 伊藤	25人	高校;横浜市民大会ベスト8位。
ボクシング部	永岡 庄子	10人	関東大会出場1名(ライトウェルター級)全国大会出場1名(ライトウェルター級) 神奈川県大会新人戦優勝(1年の部フェザー級)準優勝(1年の部フライ級) 東京・神奈川定期戦県代表3名(フライ級・フェザー級・ライトウェルター級)
野 球 部	岩崎薫 宮坂 山下 河合(出井)	48人 75人	高校;神奈川県秋季大会出場。 中学;神奈川区大会出場。
ラ グ ビ ー 部	岩崎泉 佐藤 鈴木	18人 12人	高校; 中学;
陸 上 競 技 部	八木 古梶 石井 安部	29人	高校;インターハイ県大会・新人戦県大会出場。横浜市民大会2位。 中学;通信陸上神奈川県大会・神奈川県選抜大会出場。
遺 跡 研 究 部	小野木 麻生 磯崎	9人	
劇団こぎと(演劇部)	稲葉 比留間	24人	横浜市大会春フェスにて照明・音響賞。神奈川県私学演劇大会優秀賞。横浜市中 学大会北部会場優秀賞。横浜市ジュニアコン最優秀賞(中学)
化 学 部	本多 更田 徳山	21人	
棋 道 部	小崎 橋本 関谷	35人	高校;春季神奈川県大会団体戦準優勝。同個人戦A級ベスト8位。夏季県大会個人 戦C級優勝。 中学;春季神奈川県大会個人戦ベスト4位。
時 報 部	西澤 石井 阿部	7人	神奈川県新聞コンクールで努力賞。全国新聞コンクールで奨励賞。
吹 奏 楽 部	曾我 松岡 宮坂	32人	第35回定期演奏会開催(4月県立音楽堂で)。
生 物 部	吉澤 大塚剛	46人	熱海合宿(8月)その他・校外施設見学など実施。
地 学 部	波田野 庄子 小林桂	15人	
鉄 道 研 究 部	大野 堤 佐々木	19人	神奈川県高等学校総合文化祭鉄道研究発表会において専門部会長賞受賞。
美 術 部	加藤幸 田中賢	10人	
物 理 部	小西 安部 沼沢	35人	
J R C 部	前田 大塚重	10人	ベルマーク集めと週1回の校外清掃。グリーンマークでもらった山桜8本を3月に植樹。

体操部・書道部・写真部・オーディオビジュアル部は 部員がないので現在活動中止中です。  
<生徒会機関紙LAUREL39号をもとに作成>

## ご挨拶

敬啓 陽春の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて 私こと このたび三月卅一日附をもって浅野学園を退職いたしました。顧みれば四十有余年、その間、生徒諸君はもとより、ご父母の皆様、卒業生各位、教職員たちに支えられて大過なく過ごすことができました。「かの日かの月かの年よ、かの季節かの時間かの瞬間よ」(F・ペトラルカ) 尽きせぬ思いひとしおなるものがありますが、ここに改めて篤く御礼申し上げます。

向後は、第二の人生などと勇み立つには羞恥心が邪魔だてしますが、さりとして風月を弄するにはいまだ心身にいささかの灯が点っているようです。いずれにもせよ、与えられた命に従いながら、ささやかな晩節を保っていければと願っております。

末筆ながら皆様のご平安を念じあげ、併せてご報告とお礼の微意に及びます。

頓首



石橋 義史

平成十六年卯月中澁

## 掲示板

同期会の案内、その他同窓会員への広報を目的とした「お知らせ」を掲載ご希望の方は原稿を浅野中学・高等学校 酒井晴雄までお寄せください。

T E L 045-421-3281 F A X 045-421-4080 E-mail sakai@asano.ed.jp

## No.1 同窓会ホームページ内容一新！！

平成16年2月より内容一新！（アクセス数25,100を越えました）

<http://www.douzouyama.com>

同期会、クラブ活動OB会など積極にご活用ください。

名簿登録データの変更も行なえます。

個人のホームページへのリンクも行なっております。



## No.2 平成16年度

## 浅野学園同窓会総会・懇親会

日時 6月5日(土) 総会：午後5時00分～  
懇親会：午後6時00分～

会場 ホテルキャメロットジャパン(旧名ホテルリッチ横浜) TEL045-312-2111(代)

会費 7,000円

詳細は、本会報と同封の案内状をご覧ください。

## No.3 (学校より)

**打越祭** 第1部文化祭...9月11日(土)・12日(日)  
第2部体育祭...9月25日(土)(雨天順延)

**学校説明会** 5月17日(月)～20日(木)4日間とも本校講堂で

**入試説明会** 10月23日(土)～27日(水)4日間とも本校講堂で

詳細は学校にお問い合わせください。

## No.4 同窓会年度会費(2,000円)納入のお願い

必ず卒業年とお名前の読みがなをご記入のうえ、同封の振込用紙でお振込みください。また、6月5日(土)の懇親会の受付での現金でのお支払いも申し受けます。

**注意**.....ただし、72期～81期(平成7年3月卒～平成16年3月卒)の会員は在学中毎月同窓会費をいただいておりますので、**年度会費は納入されなくて結構です。**

## 編集後記

『銅像山通信』も今号で第7号となりました。創刊はB4版裏表で1枚のみの印刷でしたが、発行を重ねるごとに内容も少しづつ充実してきたように思います。それは何よりも同期で教職員の酒井先生と補佐をしてくださる大野先生のご努力の賜物でしかありません。一方広報委員会のソフト面で、ホームページのdouzouyama.comも48期萩原君のボランティアで内容一新。アドレスの単純化ともあいまって今まで以上にアクセスしやすくなりました。今後も同窓会の活動や情報を『銅像山通信』とホームページ両面で、お伝えできるよう努力したいと思っておりますので、会員諸君のご協力よろしくお願い申し上げます。

広報委員会 古川高夫(45期)

## 『銅像山通信』・第7号

発行日 平成16年4月26日(月)

発行人 浅野学園同窓会

発行所 〒221-0012

横浜市神奈川区子安台1-3-1

浅野中学・高等学校

T E L 045-421-3281

F A X 045-421-4080

編集 浅野学園同窓会広報委員会

印刷 〒108-8378

東京都港区芝4-6-12

(株)廣濟堂 東京事業部

T E L 03-3453-0550

